

会議の概要

令和２年度 第６回

おおたま学園コミュニティ・スクール委員会

兼 ○ 玉井幼稚園学校運営協議会
○ 玉井小学校学校運営協議会

日 時：令和２年１１月２７日（金）１６：３０～１８：００

場 所：玉井小学校 体育館

（進行：玉井小教頭 鈴木浩記）

１ 開会のことば （おおたま学園コミュニティ・スクール委員会副会長 矢吹 吉信）

これから令和２年度玉井幼稚園・玉井小学校学校運営協議会（第６回おおたま学園コミュニティ・スクール委員会）を開催いたします。よろしくお願いいたします。

２ 教育長あいさつ （大玉村教育委員会教育長 佐藤 吉郎）

- みなさん、こんにちは。まず、先生方に御礼申し上げます。本日のオープンスクール（玉井幼稚園・玉井小学校要請訪問）では、午前中は幼稚園の保育参観及び研究協議、午後には小学校の授業参観及び分科会等を実施していただきました。さらには、今回のコミュニティ・スクール委員会（以降ＣＳ委員会と略記）にも多くの先生方に参加いただきました。ありがとうございます。また、県北教育事務所の佐藤和仁先生にも参加いただいています。後ほどご指導をお願いします。
- 今日は、『学校（幼稚園）・家庭・地域』が連携・協働した教育活動の展開』をテーマに設定していただいた。これまでを振り返ってみると、学校と家庭と地域が連携した教育が大事であると言われてから５０年（半世紀）近くになるが、新しい教育課程で特に重視されていることである。
- 「地域を学ぶ」「地域で学ぶ」「地域に学ぶ」等が大事である。そして、今「地域と共に学ぶ」ことが重要視されている。大玉の教育では、幼稚園・小学校・中学校の教育を縦軸とし、横軸をＣＳと地域学校協働活動としているが、この２つの軸を束ねるのが「学びの還元と循環」と考えられる。
- 地域の方々に学校や幼稚園に入っているいろと活動していただくことは、地域の方方にとっても生きがいづくりや自己実現に繋がっていると言える。生涯学習と学校教育を繋ぐことが大切で、それを中核となっで行っている組織がＣＳ委員会であると考え。
- 「地域人材の活用」とあるが、地域人材の「材」は「財」であり、「活用」ではなくて「活躍」であると思う。
- 後ほどのグループ協議では、熟議を通してこれらのポイントについて話し合っただけるとありがたい。どうぞよろしくお願いします。



3 おおたま学園CS委員会会長あいさつ

(おおたま学園CS委員会会長 伊藤和弥)

- みなさん、お晩でございます。今日は朝から参観させていただきました。幼稚園では、元気いっぱい活動したり、砂場遊びで川を作ったりする子どもたちの様子を見て、自分の幼い頃を思い出し懐かしく思った。
- 午後は小学校で授業を参観させていただいた。事後の分科会に参加している先生方の話を聞いていると、授業で子どもたちに投げかける発問を吟味する等、子どもたちのため、授業の成果を上げるために本当に努力されているのが分かって、改めて感心した。そういう先生方に教わっている子どもたちは、本当に伸び伸びとしており、元気よく積極的に学んでいる。
- 本日の玉井幼稚園・玉井小学校の学校運営協議会の開催に際し、このように暖かい会場を準備いただき感謝している。あたたかい気持ちで、いろんな話し合いを皆でしていければいいと思う。限られた時間ではありますが、よろしくお願いします。

4 玉井小学校・幼稚園出席者自己紹介

本日参加した玉井幼・小の教職員が自己紹介を行う。

5 協議

(1) 本日の協議内容説明

(玉井小教頭 鈴木浩記)

- ① テーマに基づき班ごとに話し合う。

テーマ「学校（幼稚園）・家庭・地域」が連携・協働した教育活動の展開

- ② 話し合いの手順は、

- 自分の意見や思い等を付箋に記入する。

< 4つの視点 >

ア 「地域人材に活躍いただく」	地域人材を取り入れた教育活動<ピンク>
イ 「地域を教材化する」	地域施設や行事を活用した教育活動<黄色>
ウ 「地域に貢献・還元する」	地域貢献活動の実施<黄緑>
エ 「地域の人と共に学ぶ」	地域や保護者との共通の学び<青>

- ・ 4つの視点それぞれにおいて、「こんな活動ができる」「こんな活動をする必要がある」「こんな活動がしたい（させたい）」など付箋に書き込む。
- ・ 記入の時間は5分程度確保するので、1つの付箋に1つの内容を記入していただきたい。
- 台紙に、記入した付箋を4つの視点ごとに貼り付け、話し合いを進める。
- ・ 時間が限られているので、視点を絞って話し合ってもよい。
- ・ 進行・記録は、各グループの玉井幼・小職員が行う。
- 各グループで話し合った内容を全体で共有する。
- ・ グループ協議後、（まとまらなくてもいいので）どのような意見が出たかを班ごとに発表してほしい。

(2) 玉井小学校・玉井幼稚園の教育活動及び本日のテーマについて

(玉井小校長・幼稚園長 小林 雄)

それでは、玉井幼稚園・玉井小学校の教育活動及びテーマについて説明します。

これは、本校から望む安達太良山です。安達太良山に見守られ、私たちは毎日教育活動を進めています。寒い季節が訪れてきましたが、子どもたちは負けずに登校してきており、本当にたくさんの地域の方々に見守られていると感じます。これからも、決して当たり前なのではなく、いつも感謝の気持ちを

忘れないようにしたいと思います。

① 玉井幼稚園の教育活動について

○ 子どもたちの様子について

- ・ 子どもたちは、友だちとの関わりで、遊びの中からたくさんのことを学んでいる。

＜年少＞

- ・ 新型コロナウイルス感染症対策で、体験活動や交流活動の実施が難しくなった。対策をしながら実施可能なもの（サクランボ狩り等）に取り組んでいる。＜年中＞

- ・ 自然体験や社会体験で豊かな取り組みをすることの大切さを痛感している。＜年長＞

○ 本年度の重点目標（自ら考える子ども、心豊かな子ども、たくましい子ども）について

- ・ 自ら体を動かして遊ぼうとする意欲を育てている。時間や場所の確保のために、小学校の校庭も使ったりして、思い切り力いっぱい遊べるようにしている。
- ・ いろいろなものに興味を持ったり、見たり聞いたりしたものに対して、自分の思いを持ってしっかりと伝える活動や場を確保してきた。
- ・ 様々な活動の中で、その楽しさを味わったり、友だちのよさを認め合ったりすること等を大切にしている。

○ 交流活動について

- ・ 子どもたちは、地域の方々との交流活動を楽しみにしている。（運動会、発表会等）
- ・ 今年は、コロナウイルスの関係で直接ふれあうことができなかった。7月の七夕の時には、小学校1年生が七夕飾りの作り方をビデオに撮って、それをビデオレターという形で幼稚園に送り、それを園児が見て作るという活動を行った。小学生にとっても、園児にとっても心に残る活動になったと思っている。

○ 園行事について

- ・ コロナ対策を講じながら、学年入れ替え制で運動会を実施した。実施してみて、子どもたちは、練習を含めて、諦めないで挑戦したり、やり遂げたりする楽しさを実感できたと思っている。また、集団で創りあげる喜びを感じることができたと考える。先生方は、一人一人の成長を認め、園児個々が自分の力を発揮できるよう支援していた。
- ・ 11月21日（土）には、コロナ対策を講じて、入れ替え制で発表会を実施した。学年の成長を感じると共に、子どもたち一人一人が主役となった素晴らしい発表会であった。

② 玉井小学校の教育活動について

○ 読書活動の充実

- ・ 朝は読書活動で1日がスタートする。昨年度、読書活動の充実という課題が残っており、今年度様々な実践に取り組んできた。下学年では、朝の時間に読書ボランティアの方々に来ていただいて読み聞かせを実践している。
- ・ 学校司書、サポート・ティーチャー等の方々にブックトークで本の紹介をしていただき、子どもたちの興味を高めるようにしている。
- ・ 学校図書館の環境整備（季節に応じた工夫）として、図書委員会の児童によるおすすめの本の紹介を行っている。

○ 自ら学ぶ子どもの育成に向けて

- ・ 主体的に学び合う授業づくりに取り組んでいる。学習課題や学習活動を選択させる等、個に応



じた授業の充実に努めている。本日の授業を見てお分かりいただけたかと思う。

- ・ 基礎的な学力の育成のために、聞く・話す・書く・話し合う等の学習規律の向上に向けて努力している。教職員も授業づくりに日々力を注いでおり、その成果が出てきている。

○ 心豊かな子どもの育成に向けて

- ・ 道徳の時間の充実に取り組んでいる。自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考える子どもの育成を目指している。
- ・ 学校・学級集団の一員としての自覚を大切にしたいということで、学級目標を掲げ、みんなで力を合わせて目標を達成しようとする気持ちを持たせるようにしている。
- ・ コロナの影響で異学年活動ができなかったが、最近になってようやく縦割り班清掃ができるようになった。上の学年の子が下の学年の子の面倒を見たり、下の学年の子が先輩の姿を目の当たりにすることの重要性を改めて感じているところである。
- ・ 5, 6年生が、学習発表会の準備等で、高学年としての自覚を持って、主体的・意欲的に会を成功させようと努力した。学校のために、みんなのために頑張ろうという気持ちが表れていて、とても嬉しい気持ちになった。

○ たくましい子どもの育成に向けて

- ・ 体育の授業の充実に取り組んでいる。「運動身体づくりプログラム」等継続的な実践を行っている。
- ・ ICTを活用したり、友だちとのふれあい、教え合い、励まし合いを通して、「運動が好き」「運動は大切」と実感できるよう指導に努めている。
- ・ 健康的な生活に向けた実践力の育成のために、保健委員会の子どもたちが、積極的な取り組みをしている。また、家庭との連携も計画的に進めている。
- ・ 安全教育・防災教育・放射線教育については、関係機関との連携を図りながら進めており、子どもたちが主体的に判断し、行動できるよう指導している。

先日、郡山北警察署の協力により防犯教室が行われた。子どもたちの課題の一つであるSNSについてもご指導いただいたのだが、こういう活動を保護者と一緒に行い学ぶことも必要だと感じている。

○ その他

- ・ 今年度コロナ対策を講じて運動会を実施した。1年生の担任から子どもの作文を見せてもらった。「白が負けたけど、お兄ちゃん達が頑張ってくれていい大会でした。すごくカッコいいと思いました。」という内容の文章が書かれてあった。子どもたち自身が創りあげた行事であり、1年生もそのよさを実感できたと考える。
- ・ 学習発表会を11月に実施し、観客の保護者も学年ごとに入れ替えをして公開した。子どもたちの頑張りが確かにあったわけだが、教職員もコロナ対策に本気で取り組み、子どもたちとみんなで創りあげる楽しい学校行事を実現した。心から感謝している。
- ・ 6年生の運動会と学習発表会の振り返りワークに、自分の反省だけでなく、友だちのよさや仲間とも関わりの大切さについてもふれているものがたくさんあった。本校では、自分と自分たちマネジメント力の育成に努めているのだが、その成果が着実に表れてきたことを感じている。

③ 本日のテーマについての説明

＜テーマ＞

「学校（幼稚園）・家庭・地域」が連携・協働した教育活動の展開

- 本年度は、体験活動や交流活動がなかなかできない状況だったが、こういう時期だからこそ、これまでの活動を振り返る必要があると考えた。
- 具体的な目指す姿は下記の通りである。

- ・ 地域の大人と子どもが交流する場を意図的に設け、子どもの社会性や郷土愛等を育むとともに、大人も子どもから学び、互いに育ち合うことができる体制を構築する。
- ・ 体験活動や学習支援等で地域が学校を支援し、ボランティア活動等で学校も地域に貢献する。双方向で連携・協働する活動を通して、学校教育の充実と学校を核にした地域の活性化を推進する。
- ・ ふるさと学習や地域を学びのフィールドとした探究活動等、地域と連携した教科横断的な学習を取り入れながら教育課程を編成する。
- 地域と学校が連携・協働することで、園児・児童にとって、学校・教職員にとって、地域にとって様々な効果があることを確認したい。
- 以上を踏まえて、4つの視点を掲げた。4つの視点それぞれにおいて、「こんな活動ができる」「こんな活動をする必要がある」「こんな活動したい（させたい）」を、各自の立場から出していただければと思う。本校・本園の取り組んでいる活動や地域住民や行政、企業等と連携・協働が考えられる単元<令和2年度玉井小学校教育計画より>を一覧にしてあるので、話し合いの際の資料として活用していただきたい。どうぞよろしく願います。

（３）グループ別協議

※ 各グループごとに進行

（４）グループ別協議の発表・共有

A 班

ア 「地域人材に活躍いただく」地域人材を取り入れた教育活動

- 地域の人材として、あだたらの里直売所や森の民話茶屋等村の施設の方々を活用することが考えられる。また、まだ取り組んでいない教育活動については、児童のお父さん方や地域の方々に協力を依頼するのも一つの方法である。
- 「学校支援ボランティアの活用」ということになると、抵抗があったり、いろいろな心配があって参加できない方々もいる。地域の方々が、どうしたら支援に入ることができるのかを話し合い、その手立てを明らかにしていくことも大切である。
また、直売所等で「野菜だったら〇〇さん。」「果物だったら〇〇さん。」等教えてもらい、説明を依頼するようにするのもいい。
- 現在は、学校支援コーディネーターに、ボランティアの要請に関して相談し決定しているので、今後も継続していく。

イ 「地域を教材化する」地域施設や行事を活用した教育活動

- 小学生は、村の歴史についてよく分かっていないところがあって、そのまま中学校へ進学してしまっている。中学生になっても、「大玉村と言えばマチュピチュ」のような有名なことしか分かっていない。大玉村には様々な名所・旧跡があるので、それを総合的な学習の時間等で学び、小学校で実践したことを中学校に繋いでいけるようにする。（小中連携）
- 子どもたちにとって、地域の方に“していただく”ことが多い。これからは、逆に地域に返すことをしていってもいいのではないかな。

B 班

ア 「地域人材に活躍いただく」地域人材を取り入れた教育活動

- いも掘りなどの体験活動（親子）について意見が出た。直売所から、農作物に関することなら何でもご協力いただけるというお話をいただいた。実際に昨年度は、農業体験、販売体験、食育活動等でお世話になっていて、子どもたちは、こういった活動で大玉村を知るきっかけになり、農家の

方々にとっても励みになって、地域貢献につながっている。

子どもたちにとって、販売はとても魅力的な活動となった。食育活動についても大玉村の米の食べ比べ体験をさせていただき、子どもたちは大変喜んだ。授業が大変盛り上がった。



イ 「地域を教材化する」地域施設や行事を活用した教育活動

- フォレストパーク等身近な施設を利用して自然体験をすることができている。

ウ 「地域に貢献・還元する」地域貢献活動の実施

- 村の祭りにもっとたくさんの子どもが参加できると、さらに大玉村が活発になるのではないかな。

エ 「地域の人と共に学ぶ」地域や保護者との共通の学び

- 防災教育について
 - ・ 防災訓練において、地域の消防団にいろんな活動をする等協力していただいているので、そのようなことについても実際に見たり聞いたりして学ぶことができる。

C 班

ア 「地域人材に活躍いただく」地域人材を取り入れた教育活動

- 現在新型コロナウイルス感染症対策等がある中で、ICTの活用は重要である（便利である、大切なこと）。これから強化していく上で、授業における利用を図ったり、企業と協力を進めていたりする必要がある。

また、大玉村には、社会福祉協議会に“かあちゃん弁当の活動”があって、ボランティアの方々が手作りの弁当を高齢者等に配付する活動をしている。その内容を学んだり、話を聞いたりする学習活動を取り入れてもいいのではないかと考える。

イ 「地域を教材化する」地域施設や行事を活用した教育活動

- ICTを用いて村を紹介することによって、地域の教材化が進んでいく。

エ 「地域の人と共に学ぶ」地域や保護者との共通の学び

- 子どもと保護者がいっしょに遊ぶ機会があまりないように感じる。学校・学年・学級の1年間のスケジュールをもっと早めに伝え、協力や信頼を得られるようにしていく。そうすることによって、共に学ぶ機会を増やすことにつながる。

以上をまとめて、C班では、共に学び成長できる大玉村の教育環境の維持や強化が大切であると考えた。

D 班

ア 「地域人材に活躍いただく」地域人材を取り入れた教育活動

- 現在、週に1日、学校に学校支援コーディネーターに入ってもらっていて、ボランティアについていろいろなやりとりをしている。村としても、学校としても、現在地域にどんな方がいて、どんなことができるのかをもっと把握する必要がある。そうすることによって、さらに活発な地域人材の活用ができるのではないかな。

C班からもICTの話が出たが、他にもデザインや音楽、運動等に長けている方々を把握し、人材バンクの登録数を増やしていけばいいのではないかな。

エ 「地域の人と共に学ぶ」地域や保護者との共通の学び

- 保護者に学校（園）に来ていただき共に学ぶ機会をつくる。
 - 保護者は、学校（園）や子どもたちのことについて新たな発見ができる。
 - 学校（園）は、様々な場面で保護者の支援をいただける。



E 班

ア 「地域人材に活躍いただく」地域人材を取り入れた教育活動

- 今やっている活動をさらに充実したものにする。
 - ・本の読み聞かせ ・田植え踊り 等
- 新しいことに取り組む。
 - ・人材発掘を進める ・運動が得意な人を学校によぶ

イ 「地域を教材化する」地域施設や行事を活用した教育活動

- おおたま・オータム・フェスタの充実を図る。

ウ 「地域に貢献・還元する」地域貢献活動の実施

- 最終的に、「大玉村に戻ってきたい」「大玉村で子育てをしたい」と思えるような継続的な活動が必要ではないか。（学年をつなげること、子どもと高齢者のふれあいの接点を持たせること等）

エ 「地域の人と共に学ぶ」地域や保護者との共通の学び

- わらを使った伝統工芸の技術を持っている人たちがいるので、自然を生かして様々な取り組みができる。

F 班

イ 「地域を教材化する」地域施設や行事を活用した教育活動

- 大玉の魅力である“米”を追究する学習が必要である。
- 伝統を若い世代に引き継いでいくことは大事なこと。
- 総合等で大玉村の魅力を学んでいるが、それを発展させてSNS等を用いて発信していく学習活動を展開する。

ウ 「地域に貢献・還元する」地域貢献活動の実施

- 玉井小ではたくさんのボランティアの方々に支援をいただいて学習活動を行っている。今度は、学校が地域に何かしら返す活動がしたい。数年前の「馬場ザクラの保全活動」はとてもよい活動であったので、また地域に子どもたちの思いを発信できるような学びができるのではないだろうか。

また、ものや形として返すだけでなく、ボランティアに来てくださった方々に子どもたちの元気な姿や笑顔を見せることも素晴らしい還元と言える。

エ 「地域の人と共に学ぶ」地域や保護者との共通の学び

- ボランティアの方々だけでなく、保護者にも入っていただき一緒に学べないだろうか。運動、楽器、絵画等が得意な方がたくさんいるのかもしれない。その方々を巻き込んで、子どもと一緒に活



動できないだろうか。手始めとして、今後学校でボランティア活動等を行う際に、参加を呼びかけてみたい。

6 講 評

(おおたま学園CS委員会会長)

- 皆さんお疲れ様でした。あっという間の時間でした。4つの視点があつて、本当ならもっと時間がかかったと思われたが、短時間で楽しく話をさせていただいた。

今回で各学校での学校運営協議会は一通り終わりになる。内容的に益々充実してきているのではないかと考えている。また、こういう機会を生かして、各校の先生方と楽しく、いろいろな話ができて有意義であったと思う。

今後、CS委員として、委員会として取り組んでいく中で先生方の協力をいただくこともあると思うが、できる範囲で力を貸していただければと思うのでよろしくお願いしたい。今日は本当にありがとうございました。

(県北教育事務所 主任社会教育主事 佐藤 和仁 様)

- 改めまして今晚は。御礼を含め、本日学ばせていただいたことを皆様にお伝えしたいと思いますので、よろしくお願いします。



- 大玉村は、このCSの一つとして地域学校協働本部事業に取り組んでいる。今年度までは、「東日本大震災による仮設住宅のコミュニティ復興支援事業」として取り組んでいたが、来年度からは、「学校を核とした地域力強化プラン」という名称の補助事業に切り替わることになる。こちらを大玉村でも採用いただくことになっている。このプランは、正に今日のこのCS委員会の内容と同じである。
- 30年後を想像していただきたい。どのくらいテクノロジーが発達しているだろうか、どれだけ日本経済が変化しているのだろうか、国際情勢はどうなっているのか等々なかなか想像がつかないが、そういう中で生きていくのが、現在目の前にいる幼稚園生、小学生、中学生である。30年後、正に社会の中核をなす人材が目の前の子どもたちなのである。私は、この大玉村の子どもたちが、村や県、日本を支える人材になってくれるのではないと思う。

- 今日、小林園長・校長先生から、幼稚園と小学校の活動の概要を説明していただいた。例えば、幼稚園では様々な体験活動をしている。その中では豊かな交流が生まれている（子どもたち同士、地域の方との交流、先生方との交流等）。例えば、サツマイモ掘りという活動一つをとってみても、そこから「大きなサツマイモを育て掘り出した喜び」「笑い合う楽しさ」とか「自分たちが苗から育て、立派に生長させた感動」等があり、豊かな交流が生まれるものと考えている。

こうした中で、子どもたちは、お互いのよさを認め合ったり、地域のよさを感じ取ったり、自然の不思議さを学んだりする。また、同時に風の匂いとか空の青さ、雨が降ってじとじとしているが畑にとってはうれしいだろうなと考えるような感覚をつかむ。玉井幼稚園・小学校では、こういう豊かな体験と交流が実践されている。

- 小学校の説明の中に「自分たちマネジメント」という言葉があつたが、本日初めて聞いた興味深い言葉であった。自分だけがよければいいのではなくて、みんなが仲良くしなくてはならないということであり、そのためには、PDCAのサイクルを生かして、計画・実践・検証・改善していく必要が

あるということである。これは、社会性を育む上で最も大事なことである。そして、重要なのが、地域・学校・家庭の連携であり、CSであると思っている。

- 本日、2年2組の算数科の授業を参観させていただいた。大変素敵な授業で、人数の多いクラスだったが、しっかりと課題を持って自分たちが学んだことや考えたことをフリースペースの中で交流していた。自分を表現する力、考えを受け入れる力がしっかりと育まれていた。さらに、2年生なのだが、一人の発表に対してみんなが体を向けて聞いている。つまり、2年生の教室の中で社会性が育まれているということである。そこには、相手を尊重する気持ち、優しさ、温かさ、たくましさ等があり、さらに「きちんとすべき時にはそうしなければならない」というルールを、2年生なりに身につけているということである。「一人を大切にすること」「みんなを大切にすること」というような社会性を育むことが学校運営協議会の資料の中にしっかりと記載されている。地域も家庭も学校も、みんな目的を一つにしているということがよく分かる姿であった。
- 今日の熟議は6つの班全てで素晴らしい内容であった。
例えば、「親子で防災訓練をしてはどうか。消防団の父親の姿見せたら最高ではないか。」や「子どもたちは、上の世代（＝親や地域の大人の世代）へのあこがれを持っている。それを大事にしていきたい。」等の意見（考え）があったが、「縦軸（幼稚園・小学校・中学校の教育）を横軸（CS・地域学校協働活動）がしっかりと支えていく」という大玉村の教育の理念が、熟議の中でも意識されていた。
- 私は、大玉村で多くのことを学ぶ機会をいただいている。これをぜひ県全体に広げていきたい。地域と家庭と学校がしっかりと連携していくことが、どんなに素晴らしいかということを伝えていきたいと思う。今日は本当にありがとうございました。

7 御礼のことば

（玉井小校長・幼稚園長）

本日は、CS委員の皆さんの本校・園に対する熱い思いを改めて感じました。そして、今日この中に本校の全職員が参加させていただき、皆さんと意見を述べ合う（授業等の充実について話し合う）、そんな姿を見ることができてとてもうれしく感じました。本当にありがとうございました。

8 諸連絡

（大玉村教育委員会 指導主事 斎藤 一範）

この後、CS役員会を予定しています。2階多目的ルームで、18時15分から行いますので、役員の皆様がお集まりください。

9 閉会のことば

（おおたま学園CS委員会副会長 吉田 都）

以上をもちまして、令和2年度大玉村立玉井幼稚園・玉井小学校学校運営協議会並びに第6回おおたま学園CS委員会を終わります。ありがとうございました。